



長崎市立三原小学校

～寄り合って、寄り添って、みんなで育て、みんなで育つ～

「笑顔いっぱい！真剣いっぱい！感動いっぱい！の三原っ子」



MIHARA TIMES

令和4年2月 09 日発行

文責 校長 宮原 友彦

Society5.0 を逞しく生きるために

狩猟社会（Society1.0）、農耕社会（Society2.0）、工業社会（Society3.0）、情報社会（Society4.0）という人類がこれまで歩んできた社会に次ぐ、5 番目の新たな社会を Society5.0 と言います。この社会はデジタル革新とイノベーションを活用することで実現する社会であると言われています。

令和に生きる子どもたちは、生まれたときからパソコンやスマートフォンなどが身近にあり、インターネットを使ったゲームや通信などを自由自在にこなして成長しています。

一方で、信頼性の低い情報を鵜呑みにしたり、顔が見えない相手との通信等で危険な状況に追い込まれたり、通信方法を間違えて大切な友達から信頼を失うなど負の部分も多くあります。さらに、多くの人と話し合い、調整することが苦手で、知識はあるがコミュニケーションがうまく取れず人間関係を築く力が身に付かず大人になってしまうことも心配されます。

こうした時代を生きる子どもたちには、コミュニケーション能力と自らの考えを発信できる言語力（日本語や外国語）が必要です。そのために、どんなことを引き継ぎ、また新しく学ぶべきかをしっかりと考えながら、コロナ禍でも、子どもたちとともに学んでいきたいと思っています。

三原に吹く風

まん延防止等重点措置が発令されているため、なかなか学校に来る機会がない保護者や地域のみなさんに、三原小の職員と子どもたちの自慢です！

右は給食担当の浅先生、右下は保健担当の渡邊先生作の掲示物です。給食作成の変化をすかさずとらえて形にしたり、いつでも誰でも健康に関心をもってもらうために、作成された物です。

また、下のパンフレットは、5年生児童の新1年生への手作りパンフレットです。入学物品販売（三密を避けるために、今年度は説明会を変更しました。）に、学校生活を楽しみにしてほしいと、一人一人に渡されました。

どちらも、相手のことを考え、相手に伝わるように工夫を凝らして取り組んだものです。このような気持ちを形に表せることができる人と三原小で一緒に過ごすことができ、私は幸せだと思います。



北部給食センターになって変わった給食の説明



5年生が新1年生のために作った三原小のパンフレット



いつでも確認できる視力



楽しんでできる健康ガチャ

宮原のつぶやき

先週の土曜日に、休みの日ではありましたが、Zoomで研修がありました。ご存じの方もいらっしゃるかもしれませんが、東京の麹町中学校の元校長である工藤勇一さんのお話でした。その話の中で衝撃的だったのは、日本の子どもは世界の子どもたちと比べ、世界の若者の「国や社会に対する意識」で、日本は「自分は責任ある社会の一員だと思う44.8%」、「将来の夢をもっている60.1%」など、すべての質問項目において、最低値だったことです。なぜそうなったのかという主な原因は今までの「与えすぎる教育」にあるとのことでした。与えられた教育は自主性、自律を失わせ、してもらうことに慣れる子どもになってしまうということでした。Society5.0を生きる子どもたちは、与えられる「受身」ではなく、自ら求め考える「自律」が必要なのだと思えてきました。